

昭和二十八年十一月二十日 初版印刷
昭和二十八年十一月二十五日 初版發行

昭和文學全集 25

阿部次郎 木下李太郎 集
小宮豐隆

著者

阿部次郎
小宮豐隆
木下李太郎

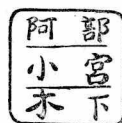
發行者

角川源義

印刷者

小田茂作

東京都品川區大井寺下町一四三〇



發行所

東京都千代田區
富士見町二ノ七

角川書店
かぶ しかば しょ せん

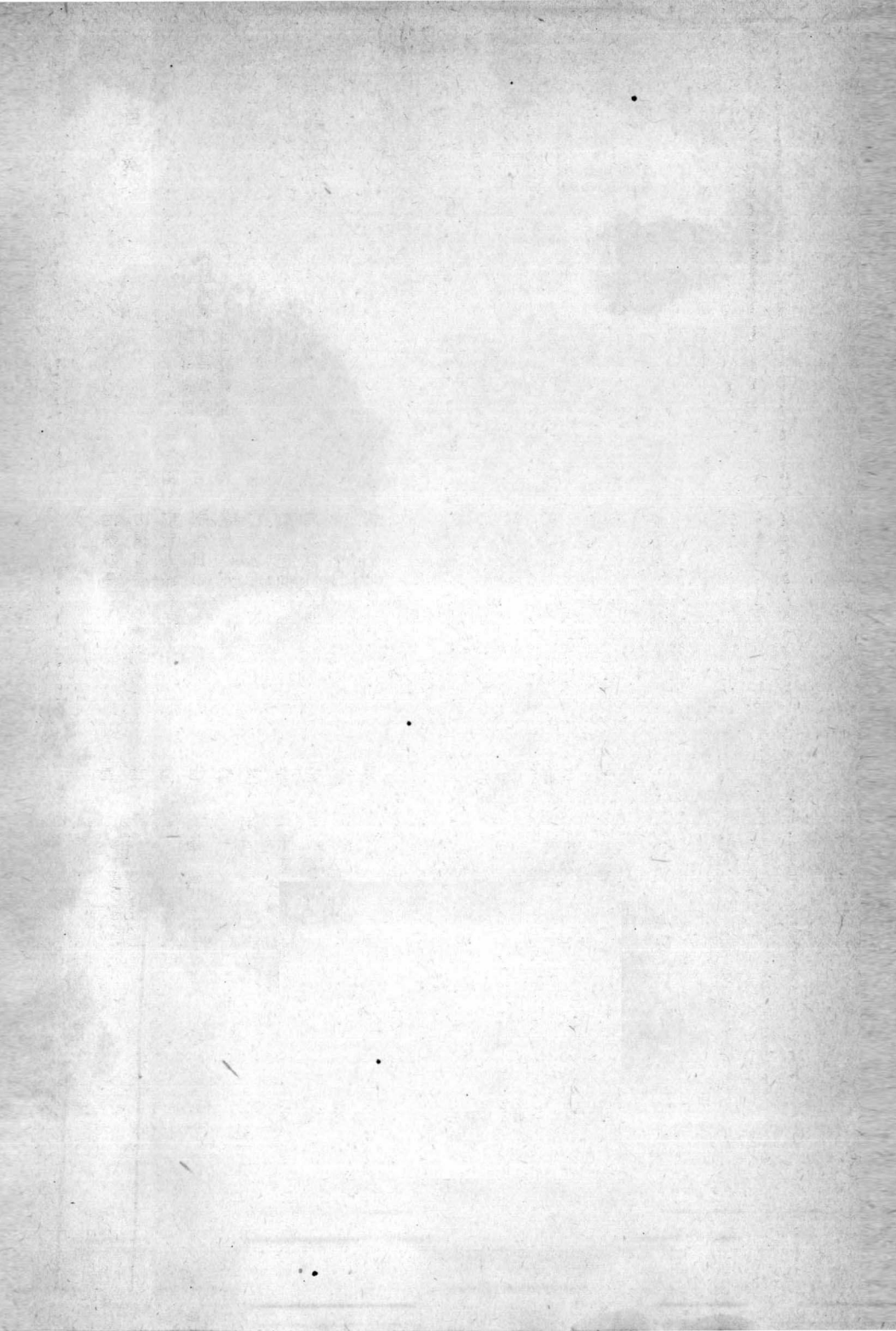
振替東京一九五二〇八
電話九段一〇九四・八七〇八

本文紙 本州製紙株式會社
クロース 日本クロス工業株式會社
印刷所 東日本印刷株式會社
製本所 小泉製本所

昭和文學全集

角川書店版

阿部次郎
木下杢太郎集
小宮豐隆



目次

卷頭寫眞

阿部次郎
小宮豐隆
木下太郎

阿部次郎集

筆蹟

問答の書

藝術問答

大學問答

思想史問答

假名遣問答

殘照より

欣々自私

秋

游歐雜記 獨逸の卷

一九年前

七 七 二 四 二 七 三 三 三 四 四 四

二	伯林の夏
三	山腹の家
四	或老夫婦の話
五	誕生日の客
六	老友の死
七	亡きあと
八	旅立を前に
九	二度目の獨逸
十	再會
十一	告別
十二	秋窓記より
十三	家と故郷
十四	吹雪の話
十五	最上河
十六	希臘詞華集鈔
十七	解説
十八	年譜
十九	井上政次

五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

小宮豐隆集

筆蹟

漱石のこと

休息してゐる漱石

木曜會

漱石の顔

『坊つちやん』とそのモデル

『三四郎』

『行人』

『明暗』の構成

芭蕉のこと

芭蕉の戀の句

芭蕉と紀行文

能樂の本質

歌舞伎の系譜

解説

年譜

平田次三郎

二五 二六 二七 二八 二九 三〇 三一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇

阿部次郎集

熟田マキ不マキ公無世マキ亦マキ月マキ行マキ去
涼年マキ可マキ奈マキ比マキ居マキ今マキ者マキ許マキ藝マキ之マキ繁マキ
涼年八月

問答の書

藝術問答

A やあ、珍客だなあ。かれこれ三十年ぶりといふところだねえ。

B さうだねえ、君の洋行送別會で神田の末廣で逢つたのが最後だつたからねえ。しかし君は若返つたよ、送別會の頃には君は肥つて重役といふ綽名を頂戴してゐたが、今はまた程よく瘦せて一高時代の倅^{こゝろ}をとり戻したやうだ。

A 御挨拶痛み入るねえ。瘦せ加減は一高時代にかへつても、齒つかけ爺さんで章魚が喰へず、僅かに残るぐるりの髪の毛は枯れ芒のぼや／＼で、寒風疎毛を吹くといふ有様ではカラ意氣地がないよ。君は出張かい。汽車に乗れるだけでも君の方がずっと元氣だ。僕は東京の會議には連續缺席で、まだ焼かれた東京を見てゐないよ。

B 出張は君に逢ひにき。今度僕の役所の方のことで、折入つて君に相談したいことが出来て、その係のC君を帶同してわざ／＼仙臺に出かけて來た譯さ。十日ばかり前に

手紙を出して置いたが、まだ届かなかつたかい？

A いや、まだ。

B 驚くべき怠慢だなあ。歸つたら早速Dの野郎をつかまへて油を搾つてやらう。

A 戦時中の疲れがまだ抜けきらないのだからよ。何しろ十年ばかりといふもの連續して非常勤務だつたのだからねえ。

B 驛についてから電話をかけて置かうと思つて電話帳を見たら、正しく君の名があつた。しめたと思つてその番號を呼出したら、こちらは、確かに阿部次郎ですが、仕立屋で大學の先生ではありません、と云つてゐたよ。君の電話はまだ復活しないのかい。

A 此間東京から來た本屋の男もさう云つてゐた。僕の國では「佐藤齋藤犬の糞、また五十嵐猫の糞」といふが、僕のは名字も名前も犬の糞なんだから、同名異人はその邊にザラに轉がつてゐる。僕の電話はまた復活しないのだよ、僕はもう隱居で、現役の諸君の方が用が多いのだから、あと廻しになるのは當然だと思つて、大人しく順番を待つてゐる次第だ。僕は僕の電話がかゝる時期を事務復活程度のパロメーターと心得てゐる。僕のところにも電話がかゝるやうになれば、遞信事務は九分通りまで復活したといふ筋合になると思ふ。

B 悠長なことを云つてゐるなあ。しかしそ

れでは僕達が差支へるよ。……しかし閑話休題として、今度來たのは、役所の文化祭で芝居をやるについて、君の智慧を借りたいといふ譯だ。C君は即ち舞臺監督で色々君にきゝたい事があると云つてゐる。話してやつてくれ給へ。

A 君の役所の相談といふので不思議に思つてゐたところだ。なるほど、それなら品によつては役に立たないこともあるまいねえ。出し物は何だい。

B 『ファウスト』の「ライブチヒなるアウエルバツハの酒場」。

A さうか、「アウエルバツハの酒場」か。いゝものを思ひついたねえ。あれは文化祭の餘興には持つて來いだ。我々の時代に、記念祭の餘興によんで來た狂言は中々人氣があつたねえ、「はんま千鳥の友呼ぶ聲は、チリやチリチリ」などはお互に口眞似をしたものだが、鼠の歌や蚤の歌は、あれにも劣らず人氣を呼ぶだらうよ。しかし君の役所には女事務員が澤山ゐるのだから。女性諸君があゝいふ男ばかりの一場でをさまるかい。

C 女の方はまた女ばかりで一幕を出すと云ふのです。それで男は男だけといふので「アウエルバツハ」にきまつた譯でした。「皮膚ですぬ。女の方は『加賀見山舊錦繪』尾上若藤睡み合ひの段でも上演しますかな。さうして「お初役者に花まゐらせ」

でもしますかな。

C いえ、さうでもないやうです。祕密にしているのによくわかりませんが、矢張西洋種をさがしてゐる模様でした。

A それで男の方の餘興は「アウエルバッハ」といふわけですか。

C 「ファウスト」のやうな深遠な哲學的作品を、餘興のつもりでやつてもいいものでせうか。

A 構はないでせう。あの場は「ファウスト」全篇では「間の狂言」の一種ですからね。作者自身も「ファウスト」の餘興のつもりで書いてゐるのでせうからね。ファウストの小世間見物の初歩、大學生活の愚劣に對する笑劇的な告別。「氣樂に生きて行く陽氣な連中」、「氣働きがない癖にひどく満足して、まるで小猫が自分の尻尾にじやれるやうに、誰も彼も狭つ苦しい輪舞の仲間になつてくる／＼廻つてゐる」懶け者、「頭痛で困るやうなことさへなければ、酒屋で何も云はずに貸し續けてくれる限り、酒満足して無頓着にやつて行く」吞兵衛の翻弄ですからね。この上演に眞面目腐つた哲學的にかめつ面は禁物です。上演者はこの連中を思ふ存分に自由にあはれ廻らせて、その活躍を上から、一掴みに、笑ひながら見下してゐれば澤山なのです。舞臺の上でこの立場を代演する者はメフィストです、メフィストの絲で全體を操りながら、

さういふ世界を舞臺の上に纏め上げて行くのは、Cさん、貴君の責任ですよ。

C それぞれの役の性格や顔の作りなどはどうしたものでせう。

A ファウストはメフィストに同伴の見物人ぐらゐの役をするに過ぎないから、此處ではむづかしい性格の穿鑿^{せんさく}たては無用でせう。久しく書齋に籠^{こも}つて研究に没頭しては來たが、直接世間のことは何も知らぬ老學者、まだ若返りの藥を飲まぬ前の舊の長いおやぢで、前幕のせりふにある通り、氣散じな眞似の出來ぬ重つ苦しさで、學生連のこの狂態にまじり兼ねて「まごついてばかりある」心持で動作してゐれば澤山でせう。身の作りについて忘れてはならぬのは、「長い髯の看板」です。體は、で、ぢんではいけないが、メフィストとの對照上瘦せつばではいけないね。第二部をも參照すると、僕はいつれにしてもたつぷりした體附を思ひますね。

C メフィストとの對照上とおつしやるのは？

A この幕のせりふにもある通り、奴は「箒柄野郎」ですからね。色々の名文句で奴の瘦せつばは全篇を通じて強調されてゐます。昔上山草人の一座で「ファウスト」をやつたとき、伊庭孝がメフィストをやつてゐましたが、今度の貴君の一座でも、あゝいふ體格のメフィストを搜すことですな。

C 學生四人の性格描寫はどうしたものでせう。一團としての空氣は出せても、一人一人の特徴を際立たせるのには骨が折れます。

A 原作に對してもさういふ批評がありますよ。それは初稿には散文になつてゐたのを、あとで韻文に改めたのですが、批評家の或者は、學生四人の性格の描きわけは、初稿の方がよく出來てゐると云つてゐるのです。しかし僕の意見では、四人の性格は、完成した「第一部」でも結構描き云へられてゐると思ひますね。年齢から云へば、フロッシュは新入生、ブランドーはそれの上、ジーベルは更にその上、最後にアルトマイヤーはその名の示す通り「老學生」で、それ／＼に年相應の鼻つぱりと氣の弱さを持つてゐます。體格についてもジーベルの體附はちやんとせりふの中に指定されてゐるのを見るでせう——「天邊の赤けた太鼓つ腹奴」、「古酒樽奴」。一つ無鐵砲の程度に段階をつけて四人の組合せと差別とをつける工夫をして見たらどうですか。しかし四人を通じて或程度の教養、或程度のほどの感覺は貫いてゐますな。それで田夫野人や労働者などではない學生の對談宴會の空氣はだせるでせう。

C それから困るのは服裝です。御宅に參考になるやうな繪や寫眞はないでせうか。

A その問題は僕には苦手でしてね。手許に

は上演寫眞も、服裝を考へ出すに足るやうな風俗畫集もありません。東京へ歸つて大きな洋裁屋にでも相談して見たら、圖入の服裝史のやうなものを見せて貰へません。しかしその前に、服裝選擇の方針をどうするかといふ問題があるでせう。つまり

傳説の時代の十六世紀で行くか、著作の時代の十八世紀末で行くか、それとも孰れにも拘束されぬ現代式の空想で行くか、ですね。作者はそんなことは十六世紀にはなかつたことを百も承知してあながら、わざと十八九世紀の現在の慣習や思想や事件をその中に持込んで時代違ひの滑稽を隨所に作り出してゐるので、十六世紀で行かうとするのは、あまりに歴史的過ぎるでせう。寧ろ思ひきつて現代で行つた方が作者の精神に協ふのかも知れません。詰襟の金ボタンでも氣分が出ないが、少し街頭を獵つて面白いモデルを搜して見たら、案外ヤンヤと云はれるものが見つからないとも限らないでせう。あまりブカ／＼のルンペン服や労働者風でも、ライブチヒを小巴里と稱して風俗の雅やかさを自慢にしてゐる連中の服裝には不向きでせうが、氣取つてゐて、だらしがなくて、さつぱりして、手落のある着物を工夫して見たら如何です——どうせ餘興のことですから。

B 君は「餘興」「餘興」といふが、役所の若い連中はその餘興が嫌ひでねえ。自分達は

自分の娛樂の爲に劇をやるんぢやない、文化國家の建設に貢獻する爲に劇をやるんだと云つて大した張切り方なんだ。それに動かされて僕まで仙臺にやつて來たやうな次第でね。

A さうかい。すまなかつたねえ。さうすると君の役所には俳優の天才が澤山あるといふことになる。自分の本分は將來俳優になるところにあるので、役所の仕事は當分の腰掛と心得てゐるといふことになるね。演劇によつて文化國家の建設に貢獻するほどの仕事をするには、非常な、骨身を碎くやうな積古がいるからね。

B いやそれほどでもないがね。たゞさう思ふ方が愉快で氣乗りがするらしいんだ。

A 僕はまるで反對だねえ。本當に文化國家の建設に貢獻する氣なら、それ／＼の職場で自分の仕事に精勵するのが第一だと思ふ。どんな文化國家だつて經濟的基礎もしつかりさせなくてはならないし、連絡循環の組織も圓滑に働いてゐなくてはならない。どんな文化國家でも、消化系統、循環系統、呼吸系統、神經系統の健康が先決條件になる。人は頭のみにて生きるものにあらずといふわけでねえ。藝術は専門家にとつては、一生の仕事、懸命の仕事で、藝術家が藝術上の仕事で文化國家の建設に貢獻しようとするのは誠に結構だが、ほかの職場で本氣に働いてゐる人達にとつては、そ

れは身だしなみであり、慰安であり、餘興であればそれで澤山だと思ふ。文化國家の日本は、素人芝居の勃興や藝術鑑賞會の簇出では決して出來上らないよ。僕が君なら、役所の連中に年に一度の餘興としてでなければ素人芝居の興行は許さんことにするねえ。

B 民主主義の世界では「許さん」といふやうな事は許されんのだ。

A いくら民主主義の世界でも、命令系統の組織は必要なのだらう。決斷して命令する任務と服従して遂行する任務との差別がなければ、どんな機關も働くまいぢやないか。君は局長として君の役所のおやぢだらう。息子どもの不量見を説得して、本職に精勵させるだけの押しが利かなければ心細いよ。

B いや、仙臺くんたりまで叱られに來たやうで恐入るがね。歸つてから君の言分を息子達によく傳へるから、もつと遠慮なしに小言をぶちまけてくれたまへ。

A さう云はれると痛み入るがね。僕が君の役所に第一にあつてほしいと思ふのは、事務促進研究會だ、それが文化國家建設に對する君達の分擔だからだ。第二にあつてほしいと思ふのは修道會だ、神道でも佛教でも基督教でも天理教でも構はないから、宗教的雰囲気を持つてゐてほしい。それは自分の本職に殉ずる腹を練る必要があるから

だ。さうして第三には、藝術研究會も無論ほしい。それは身だしなみのため、機關運轉の潤滑油を必要とするためだ。さうしてこの第三の研究會の一部として、御祭りのときには、素人芝居の餘興も無論結構だ。しかしそれは年に一回だけだよ。それに耽り出すと本職の邪魔になる。本當に俳優としての天分を持つてゐてそれに熱中せずにはゐられない男がゐたら、好意を以て役所から追出して、芝居の親方の許へ送り届け給へ。

B これで漸く「アウエルバッハ」上演の御許しを得たわけだね。君は、ツケツケ云ふところは、高等學校時代とちつとも變らな

いねえ。僕は久しぶりでAの小言をきいて、却つていゝ氣持だつたが、初對面のC君は驚きはしなかつたか。

C 私には局長が叱られるのを見るのが愉快でしたよ。ハ、ハ、

A C君も中々前途有望だね。C君、昔僕達の一高時代には音曲御法度でね、而も學校當局の命令ではなくて生徒の輿論の制裁がさうだつたのだから驚くでせう。さういふ霧圍氣を知らなかつた新入生が或晩のコンパの餘興に「今ごろは半七さん」をやつたものですよ。さうするとそれが中堅會の問題になつて、一時喧しくなりかけたが、今はなくなつた嶺といふ男が敢然それを辯護して輿論に反抗したことがありますよ。

あれも一つのヒロイズムでした。今の抜目のない文化青年に較べると隔世の感がありますねえ。

B 嶺も面白い奴だつたが、音曲排斥の蠻氣も懐しいよ。天下國家を雙肩に負ふべき健兒で、そんな卑俗な、女々しい唄を歌ふ奴があるかといふ勢なんだからねえ。

A あれも程度問題だよ。僕はあの蠻氣にかなふれたんだか、輿論に遠慮したんだか、つい團十郎も菊五郎も見ずに死なれてしまつたよ。君の役所でも見るものは和やかに見せておきたまへ。さうして年一回の御祭りには「ファウスト」にでも「加賀見山」にでも夢中になつて没頭したまへ。併しB君、それにつけても君にもう一つ注文があるよ。

B にや／＼してゐるな。何だい？

A 文化祭の餘興としては、仲間のする芝居を見物するだけでは趣旨が徹底しない。文化祭に参加する者は、誰でも見るだけではなくて自ら實行すべし、といふのが本當だよ。實行は即ち出演だ。會衆がみんな祭にパティタするやうに、最後に一つ總踊りをやつたらどうだい。木曾節でも伊那節でも——アウエルバッハの樽乗りに使つた樽を利用して、佐渡おけさなども最も妙だらうぢやないか。昔君と浅草で一緒に見た梅坊主のカッポレでもいゝ。さうして局長さんも勿論その踊に加はらなければい

よ。

B イヤ恐れ入谷の鬼子母神……

A ちん／＼端折りのおぢいちゃん、孫の土産の木吏入道、堂の前なる焼鳥屋……ホイこつちは雜司ヶ谷の方だつたな。雜司ヶ谷の鬼子母神は焼かれたかい。

B どうだつたかなあ。何しろ學校卒業以來彼方へ行つたことがないからねえ。

A 四十年ぶりか。お互に年寄になつたねえ。

(廿二年師走)

大學問答

A やあ、暫く。學會はもう済んだのかい。よく寄つてくれたねえ。

B 會は昨日済んだ。昨夜すぐに歸らうかとも思つたが、君の健康のことが氣にかつてゐたので、様子を見て行かうと思つて一日延した。體の具合はどうだい。

A この冬の初に「冬眠」といふ言葉を發明してねえ。十二月の半はから穴もぐり中といふ看板をかけて、「御用は一切來春穴より這出したる後に願上候」といふことにしたので、割合に吾氣に一日一日を送つて來たせぬか、この冬もどうやら生きて過せさ

うだよ。どうせかういふ世間のことだから、蛇穴の中にも、うるさいことが體にくつついて忍び込んで来ることは、防ぎかねるがね。ファウストの白ぢやないが「其處に秘かなる痛みを蒔いて、安氣なく身をゆすり、悦びをも靜けさをも囁けてしまふ」憂といふ奴さんが、「家となり屋敷となり、妻となり子となつて」爺の安眠を妨げに来るからねえ。しかしこの方の絆は寂滅爲衆までとはとても脱れられん約束と諦めて、後生樂の高野といふ奴を折角修業中と申す次第だよ。

B それがいゝ。我々のやうな老人には、精力の節約集中の工夫が何よりも大切で、そのためにはくどく／＼したことは無視超越しなくてはやりきれんからねえ。

A さうしてその工夫は若い者にも必要なことを、僕は近頃つくつくと感じてゐるよ——學生のフラ／＼してゐる様子が隱居の眼にもあまるのでねえ。

B 無理もないよ。落着いて住む場所もなく、晝飯の辨當も何處で有りつけるかきまつてゐないやうな有様では。

A あゝ、君は「東京大學學寮建設促進會」の發起人だつたねえ。あれは大賛成だ。僕も僅かばかりでも奉加につかうと思つてゐる。封鎖預金をそれに振向けようと思つてゐるのだが、穴籠りの蛇にはとぐろを解いて銀行に行くのが億劫で、まだ送り出して

ゐないがね。

B 申込はしてくれたい。

A いや、まだ。三月一杯でいゝのだらう。

B 困つたな。申込期間は二月一杯でもう締切になつてゐるよ。三月一杯といふのは拂込期間だ。

A それはすまなかつたなあ。隱居大しうじりといふわけだね。歸つたら他の發起人諸君にも相談して、どうにか追加受入の便法がないか、きかして貰ひたいものだ。今度こそ後れずに銀行に駆付けるから。

B 相談して見よう。兎に角賛成してくれるのは嬉しいよ。仙臺ではまださういふ企はないのかい。

A 隱居の耳にはひらんねえ。隱居前からチヨイ／＼總長の耳に囁いたこともあるのだがね、またその運びに至らんと見えるよ。卒業生の頭数が少くて、やつて見ても確かな金は集るまいと思つてゐるのではないかな。しかして東京のだつて「學寮建設促進會」といふ長々しい看板の表す通り井戸水の湧出を促すための誘ひの水、政府や國會の情眼を醒すための曉の鐘に過ぎんのだからね。集つただけの金で一棟でも二棟でも早速起工して、希望の學生を簞引でも片ッ

ばしから入れて行けば、前途は次第に開けて行くよ。先づ着手しないのが怠慢なのだ。

A 御叱り誠に忝い。僕もこちらにその計

畫が出来て、發起人になれといふ申込でもあれば、快諾して引受けようと思待にしてゐる。大學を教育機關として見れば、學生に落着いて勉強の出来る環境を與へるのが、目下第一の急務だからねえ。さうしてその必要な環境のうちにも至急を要するのは住居の問題だ。

B 仙臺でもさうかねえ、東京では正にその通りだ。

A 東京ほどではあるまいがね、仙臺でもなかなか大變らしいよ。世は末世に及ぶと雖も、流石に人情といふ奴は減びてしまつたわけではないから、偶然的幸運で親切な下宿に當つた學生は、下宿料も食物も從前通りで、親切にして貰つてゐる連中も稀にはあるやうだがね、大多數は一ヶ月米五升持參とかいふ加役がついて、申譯ばかりの粗食、燃料の配給は大部分煮炊用として取上げられて煙房用には自分で闇炭を買はねばならず、夜は勉強の便宜を全然考慮して貰へぬ斷續明滅電燈で油の乗つた讀書や研究を妨げられて、心も體も寒く、暗く、瘦せ細りながら、どうにか學籍を繋いで置くやうな有様のやうだ。さうしてその上に最も困るのは、さうした下宿でも我慢すれば安住が出来るなら結構だが、他に有利な條件を持たむ競争者が出現すると、頻々として追立を喰ふことらしい。下宿捜しに日を暮してゐては學問は出来ないからねえ。

B 宿のことは仙臺も東京と同様らしいね。

しかし食物の方は、何處からどう手筈をたぐつて来るものか、學生の方が僕達の家庭よりも旨いものを喰つてゐるやうだよ。尤も東京では闇類(くらゐり)の儲口(もちぐち)が處々に轉つてゐるので、利口に立廻れば學生でも中々金儲が出来ららしいからね。

A 東京に比べれば一桁も二桁も下るだらうが、仙臺でもその口はある、それをやつてゐる學生もチョイ／＼眼につく。しかしそれをやつてゐては、益々學問が荒むだけだからねえ。イヤ、學問が荒むだけではすまない、精神が荒れて腐つて行くのが猶恐ろしいのだ。始めから學問をほつたらかして旨い汁を吸ふ方に熱中する者は學生の屑で大學から云へばそれはどうにかした間違ひで紛れ込んで来た「無縁の衆生」だから、まあ問題外にしてもいいのだがね、心配なのは本當に學問をする氣で學費に無理をしてはひつて来た學生が、學籍を繋ぐために否應(ひたひた)なしに金儲の方にひつぱり込まれることだ。圓下落の潮流は、日本が今のやうな世界的地位に立つてゐる限り、誰が巨力と快腕(くわいばん)とを揮つたつて堰き留める譯には行かないだらうが、食住の經費を現状の許す程度で健全に低廉にする工夫は大學當局にも出来る筈だ。さうすれば貧乏學生も最小限度に勤勞時間を切りつめる工夫もつかうといふものだ。さういふ氣の毒な學生に出

来るだけ學問の爲に使用する時間を多く與へたい——それだからこそ僕は寮舎の問題を住だけではなく、食の問題にもかけて重視するのだよ。

B さうだ。國家が將來にかけて特に學生に期待してゐる任務を負擔して貰ふために國家は學生の爲にどんな事をしてやらなければならぬか——この問題の極めてハンブルな卑近な第一歩として、云はば重大問題の一端として、學寮の問題がチョツピリ覗いてゐるのだからね。——仙臺では學生の下宿料が平均とれぐらゐだ。

A 先月或る學生にきいたら、純粹に下宿料だけで、どうしても月千八百圓はかゝりますと云つてゐたよ。話が此處まで来ると、問題は更に新局面に發展する。

B といふのは？

A 今僕のうちにには戰災焼出されの教授一家、助教授一家が同居してゐるがね、教授の方は四人暮し、助教授の方は三人暮しで、今さつきの學生の下宿料の標準で計算して見ると、一方は千八百圓の四倍の七千二百圓、他方は三倍の五千四百圓。それが喰ふためのカツ／＼の費用で、本代や税金や月給から差引かれる諸寄附諸會費などを全然計算に入れぬ經費だからね。ところでかういふ貧乏教授や貧乏助教授の國家から頂戴してゐる俸給は七千二百圓や五千四百圓の半分になるやならざだらう。それでも

どうにかして暮してゐるところを見ると、其處には二肢をなす結論の枝がわかれて伸びて来る。第一には、學生の下宿料が法外に高いのだ、今のやうな貨幣價值でも、千圓位で賄へる餘地は残つてゐる筈だ。第二には教官の俸給が、學生の下宿料の半分の程度の生活をしなければやつて行けぬほどに法外に廉いのだ、國家は大學教官にこの程度の生活を保證してゐるに過ぎないのだ。これは正當であるか。思ふに孰れも正當だとは云へまい。

B そこで、第一に、政府と大學當局とは、學生の經濟的負擔を軽減すべき方策を眞剣に考究して急速に實行すべし、第二に、大學教官の待遇を少くとも學生並に生活し得るやうに改善すべし、といふことにする譯だね。君の演説の要旨はよくわかつたよ。

A 更に演説を續けるがね。一體教員の俸給は中央支辨の教官よりも地方費支辨の教官の方がずつとよくなつてゐるとかいふことだ。それは何故だらう。まさか組合でせびるから色々の名目で附加給與の額が不知不識膨脹して、大人しくしてゐる方は何も云はないから知らん顔をしてはふつて置くといふ譯でもあるまいがね。しかしその疑を抱かせるだけでも國家にとつて冥々の間に大損害になる。自分の持場を本氣に守り通すといふ、今の日本にとつては親石ともなすべき大切な心掛が弛んで来るからね。こ

れまで學問に没頭して、貧富の外に道を樂む氣節を持続けた者に、あはれなければ損だといふ下司根性を植ゑ込むことになるからね。尤も、隱居の見たところでは、幸ひにして此處の教官連はまだそれほど下司になつてはゐないやうだ。乏しいが上にも乏しい研究費をやり繰りしても、學問上で捉へたテーマを離さずにそれを仕上げて行くことを樂みにしてゐるやうだがね。

B

さうしてやむを得ぬ金があるときには、亭主の外套を賣つたり、妻君の晴衣を質にいたり、甚しきに至つては、商賣道具の本を賣拂つて無理工面をしたりして行くといふ譯か。君がさつき云つた通り、それ世は末世に及ふといへども、學問の日月地に墜ちずと云ふところだねえ。たゞ久しくこのまゝにして置いては、いつ日月が地に墜ちまいものではないと、其處が心細いのだよ。A 全くその通りだ。問題は、國家が如何に大學を遇すべきかといふ點にある。尤も僕が大學といふのは、長雨のあとの安藪のやうにウヨ／＼頭をあげようとしてゐるらしいカレッジのことではなくて、昔ながらのユニヴァーシティのことだがね。文化國家建設の詔を奉戴して新しいスタートをきらうとしてゐる日本は、一體大學に何を期待し、如何なる任務を負擔せしむべきであるか、それが中心問題の根本問題となるのだよ。學寮の問題も、教官待遇の問題も、す

べてこの中心から派生すればこそ重大な意義を持つのだ。君はこの問題をどう考へてゐる？

B

少くとも一時を糊塗するベテンで片付けべき問題ではないね。押されれば押されて、何とか原則と矛盾せぬやうな名目の下に一方に譲歩しながら、黙つてゐる方には原則不變の詭辯を以て見す／＼差別待遇をして放置するやうな遣り口は即刻一擲しなければ駄目だね。お前達はお人よしだ。武士は喰はねど高楊枝などは封建的愚の骨頂だよ。大學聯盟でストライキをして見ろ、中等教員並みの待遇を弱腰の政府からむしり取る位はお茶の子さいさいだといふやうな嘲諷は、耳元にガン／＼鳴つてゐるからねえ。

A

政府自身のやるストライキ煽動といふ奴だね。しかし國家全體の側から見れば、待遇改善の問題も、中等教員の場合とは別様の考慮を要すると思ふね。

B

さうだ。特に自然科學の方面から云ふと、第一に増額しなくてはならないのは研究費だよ。今年度が増額して一講座二萬餘圓、來年は四萬圓に増額するとかいふ話だが、貨幣價値の下落が百分の一になつてゐるといふ計算をすれば、四萬圓は四百圓だからねえ。一年四百圓では碌な器械一つ買へやしないよ。

A

それに民間の商會社の研究所では、今

でも一桁も二桁も多い金を使つてゐるといふぢやないか。それぢや太刀打が出来まいよ。文化國家の建設を新目標として立上らうとする國が、折角優秀な頭腦を殺して使ふやうなもので、全く申譯が立たないわけだ。

B

ところが文部省内にはかういふ説もあるといふ話なんだ——日本はもう原料の生産地を奪はれてしまつてゐる、日本の工業はただ外國から原料の融通を受けて、外國の注文に應ずる製品を作る下請工場となるより外に途がない、昔のやうな高遠な目標を立てて大仕掛な研究を企てるのは無駄なことだ……

A

まさかそれが省内の輿論でもあるまいがね。馬鹿な話だよ、向うで奴隷扱ひもしない先に、先廻りをして奴隷根性になり下るのは、それは向うでは日本の恢復がどの方向に向ふことを歡迎するか、日本復興の援助はどういふ目算のもとに力點をさめるか、その注文は勿論あるに極つてゐる。しかしその外に日本が獨立獨行に立向つて行く發展方向を禁止するやうな無理を強行する筈もないぢやないか。固より軍需工業は問題にならないがね。原子工業も原料の關係上どうにもならないにしても、君達の方では宇宙線の工業化なども將來の問題にはなるのだらう。大空は戰勝國も戰敗國も差別待遇をしはすまいから、日本だつてその

研究仲間にはいつて國際的競争に加はる資格はある筈だ。それは僕の全くの素人考へだがね。そんな大袈裟な素人考は別としても、原料輸入國として考へたつて決して本店の注文にこれ命これ従ひつつ下職人になつてしまふには及ばないことだ。原料に加工する新工夫で、原料國では思ひも及ばぬやうな素晴らしい特殊製品を世界に提供することだつて出来るだらうぢやないか。英吉利の紡績工業はまあさういつたものではなかつたのかい。條件が窮屈になり不利益になればなるほど、高遠な着眼と精刻な探究が益々必要になつて来るのだと僕は思ふ。文化國家の建設などといふ前古未曾有の立派なことが、これぐらゐのアスピレーションと冒險とがなしに出来る筈がない。

他の道が塞がれれば塞がれるほど、この方面の探究に死力を集中しなければ駄だよ。僕はこの意味で、大學は新日本建設の先鋒となるべき任務を持つてゐると思ふ。第四流國の下請工場教養係に甘んずるなどは以ての外だよ。全體の財政計畫が許す限りの最大の研究費——これが政府に提出すべき大學の第一の要求だ。同時に腹の底から文化國家の建設に志す政治家の、大學に對する最大の義務だ。國費がどうしても足りなければ、俸給は基準並みに公平にするから我慢して呉れでも話はすむだらう。しかしこの一點が逸れると、その時こそ大學が總

立になつて、怠業、ストライキ——ではなくて、文部大臣に辭職勧告をすべき時期が到來するのだね。

(廿三、三、一六)

これは今年の春に某雜誌社のために書いたものであるが、同社の都合で休刊が續いてゐる間に時勢が轉變して、今ではひどく時勢にそぐぬものになつてしまつた。あの時には東京大學學寮建設運動の間接援の下心もあつたのであるが、それももう適切になつてゐるであらう。しかし他の大學では依然としてその必要を痛感してゐるところも多からうと思ふので、その催進運動の振動にでも役立つところを新つてゐる。大學の修給や研究費なども増額になつてゐるといふので、羽田書店で文部省に行つて現在の事情を調べて来てくれた。參考のためにそれを附載する。その他の點でも現在の情勢と喚ひ違つてゐる點が色々あるやうであるが、昭和廿三年の春にはかういふことを云はせる事情があつた證據として半ば歴史的興味を以て寛恕して貰へれば幸ひである。

(昭和廿三年十二月十一日筆者附記)

官立大學に於ける教授助教授の俸給額及び研究費 (十二月現在)

文部省に於ける調査の結果では、某官立大學に於ける教授、一三四名、助教授二七〇名について家族三人乃至三・五人の平均月額は、教授一萬三千六百圓、助教授九千五百圓(税込)自然科學研究費は、一講座、教授助教授各一名、助手二名の構成で年額一萬八千五百圓である。人文科學研究費は三萬八千七百五十圓、臨床醫學研究費は一三萬一千圓である。尚以上は昭和

二十二年度本豫算の結果であるが、研究費不足の爲十二月より價格補正費として三割増支給。

思想史問答

A 日本思想史講座の後釜はもうきまつたかい。

B いや、まだ。

A 人を得るのはむづかしいだらうからね。しかし文化國家として日本がもう一度立ち上らうとするんなら、何を措いても補充を急がなければならないと思ふのだから。

B ところが、正にその點に問題があるらしいんだ。人の問題も勿論問題だが、その前に、そんなものが新時代にとつて必要かどうかといふ點に疑問があつて、そのために銓衡氣乗薄といふ實情らしいよ。勿論廢してしまへといふほど積極的でもないやうだがね。

A さうか。藥に懲りて膽を吹くといふ奴だな。神がかり恐怖症が此處にもはやつて來たのかねえ。

B 膽を吹くのも一理はあるよ。ついさつき養えたぎつてゐる藥を吸はされて口を焼いたばかりだからなあ。腹の中に吞込んで體が温まる程度の熱にしてくれなければ、誰

だつて吐き出さずにはあらまいぢやないか。

A 糞の調理がいけなかつたことはよくわかつてゐる。しかしそれだからと云つて膾を吹く者の愚に變りはあるまい。

B 多分あんた糞を喰はせるほどの調理人だから、膾の中にたつて青酸加里を忍び込ませてゐないものでもない疑ふのだらう。

A それは調理人の問題だらう。「日本思想史」の問題は調理人の問題ではない。原料そのものの滋養價値の問題だ。調理人はいくらでも厳選するがいい。調理人に不心得者があることを恐れて現在並びに將來の日本人にまで、特別に彼の體に合つてゐる試験済の食料を喰はせまいとするのは、依然として愚の至りだよ。一つ討論會をやらうか。

B 何の討論會を？ 問題は何で、君と僕との役割はどうなるのだ？

A 問題は「日本思想史講座は有用か無用か」。僕は有用論者、君は無用論者。

B 君は近頃流行の民主的教育者の眞似をする氣だね。僕はあれほど有害で愚劣なものはないと思つてゐる。僕が耳にしたのは三四の例に過ぎないが、それでは第一に問題の出し方がなつてゐなかつた。賛否兩派が別れて討論するのは、結論が兩者擇一の外にあり得ない場合に限るだらう。丙も丁も戊も様々の可能性があるので、甲か乙かな

どといふ問題を提出して眞赤になつて論じ合はせるのは、それこそ君の所謂「愚の至り」だぜ。君のよくいふカントの言葉——ぢやない、カントの利用した諺——の云ふ通り、それは「牡牛の乳を搾つて篩でそれを受ける」やうなものだ。そんなことで智慧の乳が溜るものか。頭のいい生徒は、先生の愚鈍を嘲つて、人を馬鹿にしてゐると云つて憤つてゐるだらうよ。

A 新教育者諸君は、屹度、道理のないところに道理をくつつけて對手をへこませる當世向の「いい頭」を訓練して置かうと新工夫を凝らしてゐるのだね。

B 僕が討論會を愚劣、のみならず有害と思ふ第二の點は正に其處にある。そんなことはソフイストの辯論術の稽古で、アテナイの民主主義の亡んだ理由も一つはそれにあるといへるぢやないか。今の日本のやうな、打ちのめされた國が起ち上るには、その正反對の訓練が必要なのだ。些事末節を争はずに隣人と一致する訓練、他人の思想や言説の中に出て來得る限りの道理を發見して、實踐的に協力し合ふ訓練、他によつて自己の不完全を補ひ、自分の過ちをあつさりと承認して、他の過ちに改悛の機會を與へる訓練——それが、無理こじつけに自説を辯護して、隙があらば對手の揚足をとらうと鵜の眼鷹の眼できよろきよするやうな根性を振動することによつてなされるも

のか。

A 僕は今までそんなことを知らずにゐたが、君の説では新教育者諸君顔色なしだね。さうすると、君の意見では討論會は全然無意義になるのかい？ 僕達が子供の時分にも學校の先生に「牛が有用か馬が有用か」といふやうな題で討論させられたぢやないか。馬も有用、牛も有用といふことはわかりきつてゐながら、一方の難癖をさがし一方の長所をさがしてゐるうちに、いつの間にか牛と馬との知識を敵味方とも増すことになつたぢやないか。尤も腹の底では敵も味方も、二つながら有用なことを承知してゐるのだから、和氣霽々と巫山戯ながら論ずるのが面白かつたのだがね。

B 驚いたことには、あの時代と同じ考で、氣樂に、輕々と、大問題の討論をやらせてゐる學校があるらしい。此間或る田舎の教師からきいたことだがね、其處の或ギムナジウムでは、女生徒に「戀愛は是か非か」といふ論題を出して、その賛否を級にわけ、割當て、討論させたとかいふことだ。彼の知つてゐる一學生は自説としては賛成なのだが、自黨に反對説を指定されたので、大變困つたと云つてゐたさうだ。これなどはひどく見當違ひな一例で、勿論何處でもそんな馬鹿な眞似をしてゐる譯ではあるまいがね。第一にギムナジウムの女生徒にそんな重大な、而もたしなみのない事を公然